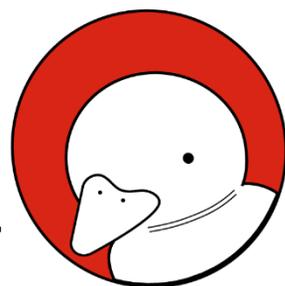


2023年度冬号（第20号）



岡本先生インタビュー



今年度で京都府立大学を異動される岡本隆司先生にインタビューを行い、熱いメッセージを頂きました。（高嵯・岩田・佐藤）

一府大での思い出を教えてください。

およそ四半世紀、府大にお世話になりました。その間、研究・教育も充実しており、同僚や学生にも恵まれました。日々暮らす職場として居心地は良く、そのような場を与えて頂いたことが一番幸せでした。元々京都府立大学を知らず、かつ公立大学の経験が無いので不安でしたが、来てみると公立大学ならではの良さや京都府が持つユニークさが沢山ありました。ここの文学部、特に歴史は世界的にも恥ずかしくない水準



▲インタビューの様子

ですし、学科内外には高名な先生方がいらっしゃいます。そのような良い所に来て、思い切り研究をさせて頂きました。学科旅行、合宿研修や洛北史学会の立ち上げも良い思い出です。しかし、幸せ過ぎて、このまま安住するのいかに悩んでいました。思いがけずお話をいただいたため、我儘を言わせて頂きました。新たな職場は初めての大手私立なので、楽しみであり不安でもあります。皆さんが大学生活に果敢に立ち向かうのと同じような気分を味わえたらと思っています。

一学生へのメッセージをお願いします。

大学で学び、自己実現をすることが重要です。高校では集団・社会生活の基礎を身に付けることが主でしたが、大学では自分に向いているもの、もっと言えば自分に向いていないこと、つまり不得意なことを探すこととなります。すなわち得意に関心が続き、打ち込めるものを見つけることが大学生活の目的です。我々教員はそのお手伝いができればと考えております。その中でそれぞれの研究分野・専門に関心・共感を持ち、役立ててもらえたら良いと思います。

学び、自己実現



▲岡本隆司先生

一著書のご紹介をお願いします。

新刊の『物語 江南の歴史』（中央公論新社2023）は違いますが、私の書籍は多くが本学の授業、特に東洋史概論を基にしています。東洋史、ないし歴史学全体のことを考えるきっかけになるといいますので、全部おすすめしたいです（笑）。私は、元の専門が中国南方の社会経済史でしたので、振り返りの意味もあり、今回『江南の歴史』を著しました。その分楽しんで執筆しましたので、同じように楽しんで読んで頂けるとありがたいです。また、一口に南方といっても各地に大きな違いがあるので、その面白さを表現できていると幸いです。私は東洋史が専門ですが、できるだけ日本史・世界史も考えるようにしているので、そこにも注目して読んで頂きたいです。専攻の如何に関わらず違う分野を学ぶことで、あまり考えない地域を意識に入れることが大事であると思います。

PROFESSOR P × S STUDENT

交流会



今年度も歴史学科PS交流会が、去年に引き続き行われました。PS交流会とは、1回生の学生が先生方の研究室に訪問し、先生方の専門分野についてお話を伺ったり、質問をしたりすることを通して、先生と学生の距離を縮めることを目的に始めた行事です。

質疑応答の時間には、先生の専門分野について詳しく尋ねる人もいれば、自身の研究や進路の参考にしようと、先生の研究手法について尋ねる人もおり、参加した多くの学生にとって実りある時間になりました。興味のある分野がある程度定まっている学生にとっては、その分野をより深掘りすることにつながり、まだそうではない人も様々な先生のお話を聞く中で視野が広まったことでしょう。特に先生方ご自身の恩師や研究姿勢についてのお話は、将来の研究において理想となる姿をご提示くださり、学生のやる気を促す機会になりました。

「何か疑ってみる、普通の人とは違う視点をもって取り組むことが大事」と藤本先生は仰っていました。その言葉はこれから歴史学を学んでいく学生に対する非常に良いアドバイスかと思います。これからも歴史学科の先生方にはたくさんお世話になると思うので、学生にとって、先生方との関わりを深める良いきっかけとなったのではないのでしょうか。最後になりましたが、先生方におかれましては開催へのご協力本当にありがとうございました。



▲藤本先生回の様子

～ 参加者の声 ～



岡本先生回
参加者

東洋史の立場から現在の日本史研究に対する意見や、先生が東洋史を始めたきっかけなど普段は聞けないような先生の個人的なお話も聞けて、とても有意義な時間になりました。



藤本先生回
参加者

先生ご自身が学生時代に研究なさっていたことについてお話を伺い、学士論文と修士論文で研究対象を大きく変えたことで、違った視点から歴史を見つめることの面白さについてお話しいただきました。



上杉先生回
参加者

設定したフィールドの歴史を、古代・中世などの時間を縦断的に研究できる点がとても魅力的だと感じました。また、今までのゼミ生の卒業論文を紹介していただいたり、毎年ゼミで行われている沖縄調査についてお話していただくなど、今後ゼミを検討するにあたってとても参考になることをお聞きすることができました。

今号は高嵯・寺本（校正）、芝田・米山・若山（編集）が担当しました。

デザ研について～About Us～

文化遺産デザイン研修は歴史学科の課外活動です。歴史や文化遺産に関する内容を自分たちで調査し、その成果を適切に表現・発信することを目的とし、インプットからアウトプットまでをデザインします。また、活動を通じてメンバー自身の成長とキャリアデザインの機会にもなっています。

2023年度は学科ニューズレター「れきしんぶん」の発行に加え、PS交流会を行いました。

今後も、卒業生インタビューなどをはじめ、様々な活動を行っていきます。

作成：京都府立大学文学部歴史学科文化遺産デザイン研修

発行：〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学文学部歴史学科



FOLLOW



@designkenshu